

## 第8回

[日 時] 平成28年9月17日（土）18:30 - 20:30

[場 所] 百俵館

[テーマ] 「志を高く持って生きる」

[講師] 国土館大学前学長 三浦 信行 氏

[使用したテキスト]

- ・『耕人』5-4.pdf（塾長から塾生へのメッセージ）

### [活動内容詳細]

#### 1. 挨拶（塾長）【15分】 ※講師の紹介を兼ねて

定例の挨拶に先立ち、木村塾長より今回の講師の先生の紹介があった。



講師の三浦信行先生は、前国土館大学学長で理事長も務められた方であり、現在もみやぎ絆大使の他、各種団体に要職に就かれておられる。木村塾長が国土館大学に入学した時に大学院生としておられた三浦先生には同郷出身ということでよく声を掛けていただき、それ以来のお付き合いである。長岡藩の米百俵のエピソードにちなんで、人材育成の場として今回の会場である「百俵館」を設立した先生でもあるから、志をもって生きるという題でどんな話がうかがえるか楽しみである。

挨拶の中では、塾生に対し木村塾長の造語「文・武・楽三道」を中心に話された。文武両道はよく言われるが、それだけではダメで、リラックスする「楽」の部分も人間力を高めるためには必要である。自分を抑えることも必要だが、時には自分を解き放すこともできなければならない。また、解き放すとは言っても、相手に失礼な態度や侮辱的な行為は厳禁で、相撲のインタビューのように、自分を見つめながら相手を慮る姿勢が大事なのではないか。文・武・楽は互いにオーバーラップしておりグレーゾーンも多いが、そのことも踏まえてバランスよく身に付けていきたいものであるといった内容であった。最後に、志の土台となるのは夢であるということに触れられ、夢をもつことの大切さを語っておられた。

#### 2. 講話「志をもって生きる」【50分】

講師：三浦 信行 氏 （国土館大学前学長）

- 1 私の育った環境
- 2 志をもって上京
- 3 東京での学生生活
- 4 アメリカ大学留学
- 5 研究と教育、そして学生活動

- 6 社会的活動
- 7 百俵館との関係
- 8 志在千里



本日、木村民男先生から講話の依頼を受けまして、皆さんのような前途ある若者に話をするのは大変緊張しております。これまでの私の70数年の人生から、私自身の感動や人生観をお話してきたらと思います。私は東京に出てから55年以上になります。当時鹿又駅から何人かの人たちに見送られ上京しました。蒸気機関車が走っていた頃のことです。その後国土館大学の学長を20年ほどさせていただきました。

私は、飯野川小学校、飯野川中学校を経て高校へ進学しました。戦後間もなくの頃でしたので、農繁休業というものがあり、4から5日程度、家族総出で家業を行いました。また、家ではヒツジやヤギに朝夕餌をやるのが私の仕事でした。どの家の子もそのような環境で生活が厳しく、つらい中、勉強をしていました。今日の私の土台となるものです。私は高校では「政治」が頭の中にあいました。恩師である小、中学校、高校の先生方のおかげです。今でも1年も欠かさず手紙を送っている先生もおります。そして、高校の先生から、「君は、国土館へ行くとよい。」と勧められ、行くことになりました。

国土館大学は、かの吉田松陰先生が作られた学校です。先生は強い決意をもち、高杉晋作や伊藤博文など、日本の指導者となる人物を育てました。私塾の松下村塾で素晴らしい人材を育てたのです。しかし、皆さんもご存じのとおり、倒幕を主張し、老中暗殺計画を立てるなど幕府にたてつき、処刑されてしまいます。先生の辞世の句は、弟子宛には「身はたとひ 武蔵の野辺に 朽ちぬとも 留め置かまし 大和魂」、家族宛には、「親思ふ 心にまさる 親心 けふのおとずれ 何とときくらん」というのが残されています。その大学で私は勉強したのです。

私は英語が苦手でした。そこで、学校が終わってからの時間、2年間、英語を学習しました。志をもって活躍するには大切だと思ったからです。また、国土館大学は、特に身なりや礼儀作法にはとても厳しいところでした。それは、建学の精神が学校に根付いていたからです。

その後、アメリカのロスアンゼルス州の南カリフォルニア大学に留学する機会があり、世界を見ることができました。もっと語学を勉強しておけばよかったというのが正直な気持ちでした。大学は、ビバリーヒルズやディズニーランドの近くにありました。今でこそ有名な場所になっていますが、当時は荒廃しており、ゴミだらけの場所でした。私は恩師の先生と一緒にゴミ拾いを続けました。そして、どんどんきれいになってきました。続けることが大切なのだとの時感じたのです。続けていれば、必ず芽がでます。

その後私は、東京に帰って20年ほど前にゴミ拾いを始めました。徐々に、街がきれいになってきました。最近では、地域の方々も参加するようになり、さらにきれいな街になってきました。ですから、耕人塾の清掃活動も、とても評価しています。

私は学生のころ、ヤルタ協定や北方領土について勉強しました。しかし、大学は知識を教えるだけではだめで、人間力を高める人づくりが大切なのです。何回も繰り返し、忍耐力をもって続けていくことが大切なのです。私は社会的活動を通して、もっと人のためにという思いを持ち続けています。そして、現在も、少しでも郷里のためにと思い、宮城絆大使をさせていただいております。それもこれも恩師に励まされながらやってきたことです。

この百俵館にある「百俵館」の札、そして前にある彫刻は、木村民男先生がご自分で彫られたものです。百俵館の由来は、新潟県の長岡藩の話「米百俵の精神」を受けてつけたものです。「百俵館」は大正時代にできた大谷地農協の農業倉庫を改修してできた場所です。百俵館では、小林虎三郎が提唱する

「米俵百俵の精神」に基づく地域の拠点を目指しています。戊辰戦争後、長岡藩は困窮していました。そこへ支藩の三根山藩からお見舞いとして米百俵が届きました。これを大参事であった小林虎三郎は、「食えないからこそ、学校を建てて人材を育てるのだ」という信念を貫き、皆の反対を押し切って「国漢学校」を建てました。それが長岡の復興に繋がっていったといわれています。

要するに、町や国の発展のもとになるのは、人材の育成なのです。逆境の中から人を育てていくことが大切なのです。

皆さんは、人生の長い時間軸の中で「今、現在」という二度と戻ってこない、一日、一時間、一瞬をどのように過ごすべきかを、学生や生徒といった青春時代のうちに学んでおくことが必要であります。ここで大切なことは、現実の社会に絶えず起きてくるいろいろな現象が、どのように起きてくるのかを、その根本に立ち返っていろいろ考えて、最適な生き方や歩むべき道を見つけることが大切です。

今日のように激しく揺れ動く国際情勢の中にあつて、日本はどのような国家や社会を目指すべきかが問われています。特に少子高齢化が急速に進んでいる我が国は、今までのような成長は見込めず、国際比較ではむしろ後退していくことが避けられないかもしれません。

このようななかで、日本のとるべき道とはいかなるものかを考えていかなければなりません。とるべきに道にはいろいろありますが、なんととっても、国家として個人として品格のある質の高い社会を目指すべきであります。

このことは、我々の先輩たちがこれまで築き上げてきた社会遺産を基盤として、強い信頼感と絆で結ばれ、伝統と近代化が見事に融合した文化の土壌が広く共有され、かつ独創性と創造性に満ちた豊かな国民性を有することを世界へと発信することで、世界の人々から真に評価される高度の社会を目指すことが重要です。

これからの社会は、自己決定能力を備えていて、且つ、物事に果敢に挑戦していく若者を求めています。すなわち、日々の課題を発掘、設定して、それを解決していく積極性と行動力こそが、これからの社会を拓いていく原動力になります。

皆さんが、今後社会に出て活躍するとき、必ずいろいろな困難に遭遇します。この時に大切なことは、自主判断であり、自助努力であり、そして自己責任です。そして、最も大切なことは、なにものにも屈することのない「胆力」を養うことです。「志は高くも、視野は広く、しかも思索は深く、行動力は着実に」という基準となる定規をしっかりと持ち、行動すれば道は拓けていきます。つまり、「意志あれば道あり」ということです。

ここで皆さんに忠告しておきたいことがあります。それは、どの時代、社会にあつても、先の見えない変動と変革の中にあつたとしても、未来の夢を放棄して現実の社会に幻滅し、傍観者となつてはならないということです。これこそが「今、現在」を無駄に過ごすことにつながり、最も慎まなければならないことです。

皆さんが、「今、この瞬間」を有意義に過ごし、志を高く持ってすばらしい未来を創造し、人生を切り開いていくことを期待しております。

最後に、この漢詩を皆さんに送ります。朱熹の偶成です。

少年易老学難成	少年老い易く学成り難し
一寸光陰不可軽	一寸の光陰軽んずべからず
未覚池塘春草夢	いまだ覚めず池塘春草の夢
階前梧葉已秋風	階前の梧葉すでに秋風

私の後について、全員で大きな声で音読しましょう。ありがとうございます。  
この意味は、「少年が年老いていくのはあつという間だが、学問がモノになるのは大変難しい。だから、わずかな時間も惜しんで一生懸命に勉強すべきなのだ。春に池のほとりに草がゆらぐのを見ながらうつらうつらと夢を見ていたかと思うと、庭先のアオギリはもう秋の気配を帯びている。」

人生はあつという間に過ぎていきます。一日、一瞬をおしまず、努力しましょう。それは、大人も子供も同じです。

皆さんの大成を楽しみにしています。ありがとうございました。

### 3. 全体学習【45分】

- ・個人の振り返り
- ・班で意見を共有
- ・全体で意見を共有

講師三浦信行先生による講話「志をもって生きる」を受け、「志をもって生きているのか?」ということについて、自分の行動面に焦点を当てて考える時間をもちました。個人での振り返り、班での意見の共有、全体での意見の共有という流れで「志」について考えました。

個人の振り返りでは、どんどんペンが進む人となかなか考えを書けない人に分かれていました。しかし、班になって意見交換する中で、一人一人がホワイトボードに自分の言葉で感じたことや思ったことを書くことができました。

全体学習の締めくくりでは、一人10秒で全員が自分の思いを発表しました。

「将来を考えて自分なりの志をもって生きていきたい。」、「自分の考えをもって行動していきたい。」「今という時間を大切に、くじけないで生きていくことが大切。」「どんな志をもって、自分がその道を選んだのかということをしっかり考えて生きていきたい。」 「何事にも努力して、広い視野で世界を見て、すべてに全力を尽くして生きていきたい。」 「一瞬一瞬の努力を怠らずに、志をもって生きていきたい。」など、一人一人が自分の言葉でしっかりと発表することができました。

「これまで志ということ考えたことがなかった。」という人もいましたが、この日感じ考えたことを大切に、これから塾生が益々活躍することを期待しています。



## メニュー

ホーム	▼
耕人塾の活動	▼
令和2年度の活動	>
令和元年度の活動	>
平成30年度の活動	>
平成29年度の活動	>
平成28年度の活動	▼
第1回	
第2回 実践活動	
第3回	
第4回 実践活動	

第5回 実践活動

第6-7回 宿泊研修

第8回

第9回 実践活動

第10回

第11回

平成27年度の活動



平成26年度の活動



平成25年度の活動



平成24年度の活動

報道・受賞